

# 令和7年度 自己評価・学校・施設関係者評価報告書

令和8年3月21日

学校法人 田澤学園 東一の江こども園

## 1. 本園の教育目標

### <教育方針>

1. のびのびと安心感を持って自ら健康で安全な生活を作り出す子ども
2. 様々な人と関わり、工夫したり協力したり一緒に遊べる子ども
3. 様々な環境に興味や関心を持って遊び、生活する子ども
4. 聞いたり、話したりすることを楽しむ子ども
5. 感性豊かに創造的に遊び込める子ども明るく健康な精神と元気な活力に満ちた心身の基礎を築く

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

	課題	具体的な取り組み方法
1	保護者との連携の充実	保護者がより乳幼児期の育ちや学びが理解できるような連携の充実を検討する
2	保育者の学びの充実	認定こども園になり、業務時間も多様になってきたため、それに応じた研修等の工夫に取り組む。
3	働きやすく、働きがいがある職場環境の工夫	「働きやすく」と「働きがい」の両立が保育の質の向上につながる。業務に対する取り組みにも視点をあてて評価したい

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保護者との連携の充実	A	○本年度より、びわの収穫や種団子づくりなどを保護者参加で開催することができた。また、2号認定児、預かり保育の保護者対象に七夕やハロウィンなどの飾りづくりを夕方に開催するイベントもできた。 ○保育参加も012 こすもすが10名、345 おおきな木が72名と多くの参加があり、定着をしてくれている。 ○在園時以外の保護者も親子広場を年間15回開催し、各回様々な企画し、例年より多くの参加があった。
2	保育者の学びの充実	B	○昨年度から引き続き、月曜日15分間のプチ研修を実施。 ○4園合同のオンライン研修も2回実施できた。 ○職場が学びある場所になってきた反面、各自の学びに委ねている部分も多くなってきているので、次年度以降、研修体系の見直しが必要となってきている。
3	働きやすく、働きがいがある職場環境の工夫	B	○2と関連するが、働きがい＝学びあるとも言えるが、組織として改めて考える必要がある。 ○働きやすさは、以前と比較しても、労務の見直しをしてきた部分が現れてきた。 ○働きやすさは「楽できる」組織ではなく、「本来の保育の仕事に注力できる」ことであり、これに関しては各自の意識が高いと思われる。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

## 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>○本年は第三者評価実施年であり、そのなかで、保護者、職員双方へのアンケート調査も実施されたが、概ね、好評であった。いただいた意見は園内で学年等で振り返り、強みと課題の認識がされ、次につなげていくことができそうである点は成果があった。</p> <p>○保護者との連携に関しても今までと加えて、新しい連携のアイデアが実践できた年でもあったので、引き続き、取り組んでいきたい。</p> <p>○働きやすく、働きがいのある職場環境であることが保育の質の向上につながるとされており、ここ数年取り組んできたが、このことが保護者が理解できるように説明できていない部分があるため、今後の課題としたい。</p> <p>○保育者としての学びの意欲は高く、各自に委ねているが、保育者が学びやすい環境づくりが十分とは言えないため、今後の課題とする。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

## 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保護者との連携の充実	引き続き、保護者がより乳幼児期の育ちや学びが理解できるような連携の充実を検討する
2	保育環境の改善	東京都「すくわくプログラム」を通して、園庭の改良をしてきたが、さらに、充実した保育環境を目指す
3	保育計画の充実	「安心と挑戦の循環」ができる保育の充実。 あそびのじかんとみんなのじかんの連関の見直し 行事と日常保育のつながりの充実

## 6. 学校関係者評価委員会・園見学者の評価

○本年は第三者評価実施年であったため、保護者からのご意見、アンケート結果は第三者評価を参照とした。

○学校関係者評価委員会および園見学 13 園 49 名から以下の意見、評価をいただく。その中の代表的なもののみ形成する。

- ・保護者が参加できるイベントができたことは今後も期待したい。そのイベントで保護者同士のつながりもできるのではないかと考える。
- ・保護者が見通しが見えないところがあるから、異年齢の姿が見られるような場面（たとえば、発表会を学年ごとではなく、異年齢にするなど）があるといい
- ・どんな題材があるかなと考えることも学びになる
- ・保育者同士と一緒に考えてくれる人がいるのが強み
- ・保育者が楽しそうにしている雰囲気がいい
- ・クラスごとに視覚に訴える刑事や取り組み経過、結果が分かる写真が参考になる
- ・ただ遊ぶではなく、遊び込める環境づくりと保育者のかかわり、共有が大切と感じた
- ・こどもたち一人ひとりが自分の居場所ややりたいことを選択できる場所が見ることができた。
- ・012 だからではなく、012 歳も色んな体験をさせた上げたい保育士の思いが詰まっている。
- ・遊びが次の日もまたやりたいと意欲が続く、持てるような工夫が見られた
- ・保育者の子どもに寄り添う言葉がけが温かくてとても良かった。
- ・遊びのコーナーづくりは子どものつぶやきに合わせて、「とりあえずつくってみる」ことが大切なんだと思った。
- ・子どもたちが安全に挑戦できる工夫をしていた。